

令和2年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	実務経験のある 教員による授業 科目	基礎・専門 別	単位数	選択・必修 別	開講年次・ 時期
52324	障がい児保育 Handicapped Children Childcare	谷村和秀		専門	2	選択	2年前期

科目の概要

障がい児保育の授業では、いろいろな障がいの理解とその具体的な対応方法や技術の工夫を事例実践などから学ぶ。また保育における注意点や健常児との保育場面での様々な発達の援助をねらいとした保育なども扱っていく。障がい児保育は、障がい児のみを対象とするのではなく、クラス全体や園全体のどの子どもにも活用していくことが出来るものととらえ、学習する。

学修内容	到達目標
障がい児保育を支える理念を学ぶ(障がいの概念、歴史等) 障がいの理解と保育における発達の援助を学ぶ(身体/知的/発達障がい) 障がい児保育の実際を学ぶ(指導計画や記録、生活や遊びの環境、育ち合い、職員間協働) 家庭及び関係機関との連携を学ぶ(保護者支援、専門機関/小学校との連携、支援計画) 障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題を把握する(保健・医療・福祉・教育、等)	障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について、障がい児及びその保育について説明する 様々な障がいについて、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について説明する 障がいのある子どもの保育の計画作成、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ちあう保育の実践できる 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について説明できる。 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について説明できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的な行動事例

前に踏み出す力	主体性	調べ学習等の自発的な学習を行うことができる
	働きかけ力	
	実行力	事例検討、グループ討議等の困難な課題にも粘り強く取り組むことができる
考え抜く力	課題発見力	事例検討等で、事例を読み取り登場人物のニーズを把握したり、解決の手だてを把握したりすることができる
	計画力	
	創造力	事例の解説通りではなく、それを土台とした自らの新しい発想を通して事例を解釈し支援計画を考えることができる
チームで働く力	発信力	グループ討議の結果をクラス全体に分かりやすく発表することができる。また、相互に教え合うアクティブラーニング形式の学習方法を実行することができる
	傾聴力	人の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	授業を欠席した際に、授業をフォローするレポートが作成できる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：野田淳史、林恵「シリーズ 保育と現代社会 学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と障害のある子ども」 みらい  
その他、プリントは適宜配布する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：児童家庭福祉、発達心理学、幼児理解  
資格との関連：保育士

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、児童家庭福祉に関するニュースに目をとめてください</li> <li>・配布プリントや資料はしっかりノートにまとめておくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に必要なもの以外は、机の上には置かないようにすること</li> <li>・正しい姿勢で受講すること</li> <li>・授業中の私語は慎み、積極的に受講すること。</li> <li>・欠席6週以上欠席すると、筆記試験を受けることができない</li> </ul>

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	90	①	✓	ポイント 1. 障がいのある子どもの特性が理解できているか。 2. 障がいのある子どもの支援の視点が理解できているか。 3. 障がいのある子ども対しての社会サービスが理解できているか		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
	平常評価	小テスト		①			
				②			
				③			
				④			
				⑤			
		レポート			①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
成果発表 (プレゼンテーション・作品制作等)			①				
			②				
			③				
			④				
			⑤				
学修行動	社会人基礎力(学修態度)	10	①		(主体性) 課題を取り組むにあたって、必要な知識を教科書・文献を使って自己学修をすることができたか。 (実行力) 一度始めたことは最後までやり切ることができたか。 (課題発見力) 思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができたか。 (想像力) 物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができたか。 (発信力) 予習や講義での身につけた知識を整理し、的確な文章で表現できる。 (傾聴力) 教員や学生の意見を確認し、さらに自分の意見を述べるができる。 (規則性) ・欠席したら、フォローレポートを作成し提出すること ・授業開始から15分以内に入室した者は遅刻扱いとする。 ・授業開始から15分を超えて入室した者は欠席扱いとする 但し、公共交通機関の遅延による遅刻については遅刻及び欠席扱いしない。(遅延証明書を提出すること) ・許可なくスマートフォン使用と私語・居眠りで注意されたら減点とする		
			②				
			③				
			④				
			⑤				
総合評価 割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について、障がい児及びその保育について理解する 様々な障がいについて、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する 障がいのある子どもの保育の計画作成、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ちあう保育実践を理解する 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 総合評価90点以上はS(秀)、89~80点をA(優)とする	障がい児保育を支える理念や歴史の変遷について、障がい児及びその保育について理解する 様々な障がいについて、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する 障がいのある子どもの保育の計画作成、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ちあう保育実践を理解する 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。 総合評価79~70点(良)、69点~60点(可)とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	オリエンテーション、障がい児保育を支える理念を学ぶ		「障がい」の概念と障がい児保育の歴史的変遷や、障がい児保育の基本が理解できる。			
2週 /	視覚障がい児の特性と援助を学ぶ（視機能・視野障がい、眼球運動障がい、盲と弱視との違い、視覚障がい児の保育の基本姿勢、点字、声かけの基本、日常生活習慣の確立、遊びの支援、対人関係の支援、遊びの考案等）		視覚教材も利用しながら、視覚障がい児の症状について理解できる。また、援助についてシミュレーションできる。			
3週 /	聴覚障がい児の特性と援助を学ぶ（聴覚障がいのタイプ、ろうと難聴との違い、日常生活習慣の確立、声かけの基本、補聴器の取り扱い、対人関係の支援、集団生活の支援、保護者支援、遊びの考案）		視覚教材も利用しながら、肢体不自由児の症状について理解できる。また、援助についてシミュレーションできる。			
4週 /	肢体不自由児の特性を学ぶ（肢体不自由の原因と障がいのタイプ、随伴障がい、乳児期の特徴、健康・安全、身辺処理動作、日常生活習慣の確立、生活関連動作の確立、対人関係の支援、遊びの支援、健常児の理解促進、保護者支援）		視覚教材も利用しながら、肢体不自由児の症状について理解できる。また、援助についてシミュレーションできる。			
5週 /	知的障がい児・言語障がい児の特性と援助を学ぶ（原因と特徴、日常生活習慣の確立、吃音・構音障がい、事例検討）		視覚教材も利用しながら、知的障がい児・言語障がい児の症状について理解し、援助についてシミュレーションできる。			
6週 /	発達障がい児の特性を学ぶ（診断基準、知覚・運動・認知の特徴日常生活習慣の確立、支援カード（イラスト）の作成）		視覚教材も利用しながら、発達障がい児の症状について理解できる。			
7週 /	発達障がい児の援助を学ぶ（1）（発達障がい児への保育の基本姿勢、声かけの基本、日常生活習慣の確立、自傷行為・パニックへの対応）		発達障がい児の援助についてシミュレーションできる。			
8週 /	発達障がい児の援助を学ぶ（2）（対人関係の支援、遊びの支援、健常児の理解促進、保護者支援、受け入れ体制、事例検討）		視覚教材も利用しながら、発達障がい児の援助についてシミュレーションできる（前回の続き）。			

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	保育課程に基づく指導計画、生活や遊びの環境、育ち合いを学ぶ (相談の基本的な流れ、アセスメントの方法、指導計画の立案)		指導計画のためのアセスメント・実施をシミュレーションできる。障がい児の環境はどのように工夫するかシミュレーションできる。集団による育ちの意義を理解できる。			
10週 /	職員間協働を学ぶ (連携・連絡のポイント、役割分担、トラブル解決)		職場で求められる協力関係、役割分担等について理解できる。また、実際の問題場面について解決手段のシミュレーションができる。			
11週 /	護者支援を学ぶ (社会資源の確認、専門機関との協同、保護者支援のポイントや障がい受容の事例検討)		様々な地域の機関との連携方法が理解できる。地域の社会資源を活用するためのシミュレーションができる。			
12週 /	地域連携を学ぶ (社会資源の確認、連携・連絡・専門機関との協同)		様々な地域の機関との連携方法が理解できる。地域の社会資源を活用するためのシミュレーションができる。			
13週 /	保健・医療における現状と課題、支援の場の広がりをつなぐを学ぶ (他職種の理解と連携・協同)		保健・医療での今日的課題について理解できる。また支援の場がどのように選択肢としてあるのか等について理解できる。			
14週 /	福祉・教育における現状と課題、支援の場の広がりをつなぐを学ぶ (他職種の理解と連携・協同)		福祉・教育での今日的課題について理解できる。また支援の場がどのように選択肢としてあるのか等について理解できる。			
15週 /	全体の振り返りとまとめを行う		障がい児保育の基礎的な理解と支援方法について自らまとめ理解できる。			

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力